

# AGEO WEST ROTARY NEWS LETTER



## 上尾西ロータリークラブ会報

創立 1973 年 3 月 28 日

発行日 2026.2.18 通算 第 2733 回 本年度 32 回 (2026.2.4)

会長：原 雅之 副会長：中村 次男

幹事：小岩井 忠 副幹事：齋藤 幸一 S.A.A：本田 幸司 クラブ広報委員会：紅谷 旺司 中村 次男 新井 登志彰 河原畑 光一 北川 健一

### 会長あいさつ

## 平和フェローの卓話に 寄せて

皆さんこんにちは。いよいよ衆議院議員選挙も終盤を迎え、国内は選挙一色といった感じですが、2/6 日明後日からミラノ冬季オリンピック開催されますのはご存知でしたでしょうか？  
今大会はイマイチ盛り上がり欠けている感じがするのは、私だけでしょうか？

### 日本の安全保障環境の変化

今日は平和フェローのバスビさんをお招きし、卓話頂くのですが、平和と言えばお隣中国の動向が気になるところですが、今中国では大変な粛清の嵐が吹き荒れているようです。

今年 1 月 24 日、中国人民解放軍の制服組トップで、党中央軍事委員会副主席をつとめる張氏の失脚が中国共産党により発表された。

広く知られている話ながら、世界最多の人員数を誇る人民解放軍は「中国の国軍」ではない。彼らはいくまでも「党の軍隊」で、いわば一政党の私兵だ。そんな軍事集団をコントロールする党の組織が、党中央軍事委員会。ところが、2022 年の第 3 期習体制の発足時に 7 人いた軍委たちは、いまやトップの習近平を除けば、汚職摘発担当の張昇民一人を残すのみになった。現在の解放軍は、実質的に「習個人の軍隊」に近いものになっている。

彼らの粛清はおそらく、解放軍内の士気の低下や命令系統の混乱、そして習近平の意向に対する過剰な忖度を生む。さらにその裏返しとして、台湾や尖閣などをめぐる偶発的事態の際の暴走の歯止めが効かなくなる可能性も高まる。

中国軍中枢の粛清によって、習近平体制の独裁色はさらに強まり、台湾有事の危険性が高まりました。

日本は厳しい安全保障環境の変化を直視し、自らの防衛力強化と戦略的外交の両面から対応を急ぐ必要があるのかもしれない。



2025-2026 年度 原 雅之 会長

### 米山奨学金授与

2025-2027 米山記念奨学生  
ファム ティ ホウさん



### 幹事報告 小岩井 忠 幹事

- ・今月のロータリーレート 154 円
- ・インターシティミーティング (IM) の出欠確認のお願い  
2/20 金 13 時点鐘 クレア鴻巣
- ・アイメイトチャリティーゴルフのご案内 4/6 月  
プレステージカントリークラブ



UNITE  
FOR  
GOOD

Rotary  2025-2026 年度 会長テーマ「よいことのために手を取りあおう」

国際ロータリー会長  
国際ロータリー第 2770 地区ガバナー  
第 5 グループガバナー補佐  
第 5 グループガバナー補佐幹事

フランチェスコ・アレツォ (イタリア ラグーザ・ロータリークラブ所属)  
熊木 雄太郎 (戸田ロータリークラブ)  
松本 安永 (鴻巣水曜ロータリークラブ)  
本多 邦光 (鴻巣水曜ロータリークラブ)

# 分裂した社会でのメディアを通じた平和構築

## —キプロスの例



第24期ロータリー平和フェロー バスビ チフチオグル様

### 私の故郷、キプロスについて

キプロスは地中海に浮かぶ小さな島で、トルコから70km、ギリシャから600kmの場所にあります。かつてはイギリスの植民地でしたが、1960年に独立しました。しかし、私たちの島は50年以上にわたって北側のトルコ系と南側のギリシャ系に分断されており、現在ヨーロッパで唯一の「分断国家」となっています。

もともと2つの民族は共存していましたが、1960年代に紛争が始まり、1964年からは国連の平和維持軍が入り、境界線（バッファゾーン）が引かれました。1974年には完全に分断され、多くの人々が家を追われ、避難民となる苦しみを味わいました。それから約30年間、境界線は閉ざされ、お互いの行き来は全くできない状態が続いたのです。

### 平和ジャーナリズムへの挑戦

私はジャーナリスト、そして映画監督として、この島の平和構築にキャリアを捧げてきました。分断されている間、両側のメディアや教科書はそれぞれ「自分たちが正しい、相手が悪だ」という物語を伝え続けてきました。私はその中間にある真実を見出し、橋を架けたいと考えたのです。2003年によく境界線が開放されたとき、私はギリシャ側の放送局で「ビズィ・ミズ (Bizimiz)」というテレビ番組を始めました。これは私たちの言葉で「我々」という意味です。トルコ系とギリシャ系のスタッフが共に働き、トルコ語にはギリシャ語の字幕を、ギリシャ語にはトルコ語の字幕をつけて放送しました。パレスチナ人とイスラエル人が一緒に番組を作るような、非常に困難で、しかし意義のある挑戦でした。

私は14年間にわたり、ドキュメンタリーなどを通じて「戦争の痛みは共通であること」を伝え、再び一つになれる可能性を訴え続けてきました。

### なぜ、いま日本に？

私は現在、ロータリー平和フェロー（第24期）として日本にきています。世界に5つある平和センターの中から、私はあえて日本を選びました。日本は戦争で大きな苦しみを経験した国であり、そこから立ち上がった歴史を持っています。そのため、日本人の平和に対する理解は非常に深く、ユニークで、学術的にも精神的にも学ぶべきことがたくさんあると感じています。ICU（国際基督教大学）での研究を終えた後は、キプロスに帰り、自分自身の平和センターを設立するのが私の夢です。制度的、学問的な知見を活かし、より強固な平和の架け橋を築きたいと考えています。

### 質疑応答

**紛争の背景にあるものについて：**よく「宗教対立か？」と聞かれますが、実はそうではありません。私たちはイスラム教徒とギリシャ正教徒ですが、対立の根本は宗教ではなく「ナショナリズム（民族主義）」でした。イギリス植民地時代に、独立運動の中で2つのコミュニティが対立するように仕向けられた側面もあります。武器はそれぞれの母国（トルコとギリシャ）から供給されましたが、それ以上に、互いのナショナリズムを煽られたことが大きな痛みの原因でした。

**今後の展望：**私はこれまで、映画やイベントを通じて草の根の活動をしてきました。これからは、日本で学んだことを持ち帰り、もっと組織的な形で平和研究所を運営していきたいです。ちなみに、私の妻が日本を大好きだということも、ここに来る大きな後押しになりました（笑）。

本日は、このような機会をいただき本当にありがとうございました。



左から、財団奨学・平和フェロー学友委員長 橋本洋子様（大宮南RC）、第24期ロータリー平和フェロー バスビ・チフチオグル様夫妻、今回通訳も務めた上尾西ロータリークラブ 水野正男君

### 例会スナップ



例会場改修工事のため、今回の会場は「ロータリーの目的」「四つのテスト」上尾東部ホテルジョリーテーブルにて



「ロータリーの目的」「四つのテスト」 唱和 福岡菊夫君



2025-2027 米山記念奨学生 ファム ティ ホウさん



スマイル報告 郡司貴江君 ファム ティ ホウさん

### フェローシップ委員

- 2月度 大貫 等 片桐 勇
- 3月度 田邊 利幸 横尾 英明

### Smile Box 29,000円 累計 348,000円

- 原雅之会長・小岩井忠幹事・中村次男副会長・斎藤幸一副幹事・日吉千穂重君・大貫等君・片桐勇君・小山清君・新井登志彰君・水野正男君・田邊利幸君・河原畑光一君・福岡菊夫君・紅谷弘二君・関根雅君・本田幸司君・郡司貴江君・今井正君

